



日本キリスト教団 引退牧師

山口雅弘 [著]

ラジオ NHK 第二「宗教の時間」オンエア
山口雅弘先生ご出演“ガリラヤのイエス わが信仰の原点”
12月24日(日)午前8:30~9:00

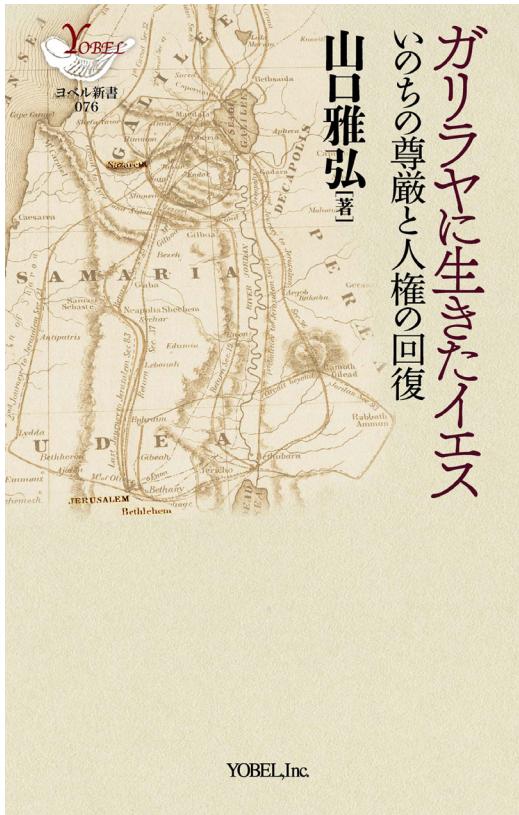
ラジルラジルで、約半年間
いつでも繰り返し何度でも
きけます。タイトルは仮題

ガリラヤに生きたイエス

いのちの尊厳と人権の回復

重版決定！

11月30日再版予定



イエスが生まれ育ち、民と共に暮らし、「神の国運動」の場となった「ガリラヤ」、その地に焦点を当てて聖書を捉え直す渾身の「キリスト教解体新書」。〈歴史のイエス〉と〈信仰のキリスト〉との間にある乖離を明示してキリスト教最大の問題を乗り越え、イエスの生き方の核心を示す「いのちの尊厳と人権の回復」に肉薄する。

“ガリラヤ”を抜きにしては
イエスもキリスト教もない！



ヨベル新書 076

イエスの眼差しは、社会的・政治的・宗教的な権力支配の構造悪によって棄民化され、難民化される人々に向けられました。そしてガリラヤの人々の願いや抵抗の生き方は、神を信頼し自立的に生きる者の「弱者の武器」を用いる「非暴力」によるものでした。人々はイエスの福音を受け継ぎ、何事も「あきらめず」に希望を持って生きるように促されたのではないでしょうか。(本文より)

まえがき

序 章 イエスの生き方の核心は？

イエスの生と死／心身の「癒し」と「全人間的な解放」／志ん生の本音とパウロの呻き、そしてイエス、他

第一章 「イエス」探求の前提

イエスの「神話化」を問う／「イエス・キリスト」という呼称／いのちの尊厳と人権を奪う宗教のシステム化／キリスト教の「変遷」を問う課題、他

第二章 「ガリラヤ」という歴史的な場

イエスと「ガリラヤ」／ガリラヤの特異性／北イス

ラエルの伝統／「異邦人のガリラヤ」と言われる理由／罪を犯さず／ガリラヤの社会と支配構造

第三章 ガリラヤ農民イエス

農民・木工職人イエス／日常の風景／中庭を中心に理と犠牲のシステム／晒し柱による死についての再考

した共同体／「女」と「男」の間には／農民の苦しみ

と弱者の武器、他

第四章 旅に出るイエス —— 怒りと希望

放浪の旅立ち？／イエスの怒り／ヒューマニズムの終章

徹底化／イエスが示す「神の国」／共食と共生の実現

を求めて／パンの分かち合い／一切れのパンのため

第五章 晒し柱 —— 犠牲のシステム

晒し柱の処刑について／十字架の「贖罪」／強者の論理と犠牲のシステム／晒し柱による死についての再考

した共同体／「女」と「男」の間には／農民の苦しみ

第六章 宗教のジレンマとその克服

イエスの「誕生と死」、そして「復活物語」／「復活信仰」と女性たち／宗教のジレンマとその克服、他

主な参考文献表／あとがき

著者略歴：山口雅弘（やまぐち・まさひろ） 1948年札幌に生まれる。日本聖書神学校卒業。以後、日本キリスト教団諸教会の牧師を歴任。アメリカ・ケンブリッジ Episcopal Divinity School に留学（神学修士号取得）。単位互換制度によりハーバード大学神学校で学び、米国長老派研修施設（ニューヨーク）常駐神学教師、並びに諸教会の協力牧師。日本聖書神学校講師（新約学）。現在、日本キリスト教団引退牧師。**著書：**『イエス誕生の夜明け：ガリラヤの歴史と人々』、『よくわかる新約聖書の世界と歴史』（以上日本キリスト教団出版局）、『イエスの道につながって：教会暦による隨想とメッセージ』（新教出版社）。**編・著書：**『聖餐の豊かさを求めて』（新教出版社）。**翻訳書：**M. ヘンゲル著『イエスは革命家であったか』（共訳、新教出版社）、L. ウィリアムソン著『現代聖書注解—マルコによる福音書』、P. パーキンス著『現代聖書注解—ペトロの手紙1・2、ヤコブの手紙、ユダの手紙』（以上日本キリスト教団出版局）、M. ディベリウス著、H. コンツェルマン改訂増補『牧会書簡注解—第1・第2 テモテ書、テトス書』（教文館）。

新書判・336頁・1,650円（税込）
1,500円+税 ISBN978-4-909871-63-3 C0216

ヨベル YOBEL Inc. 〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1 T 03-3818-4851 F 03-3818-4858 <http://www.yobel.co.jp>